



亀谷 梢 議員

恩納区海岸整備と環境変化について

質 恩納海岸と環境変化について護岸延長に伴う影響はないか伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

第一防波堤は延伸により航路側から防波堤に反射した波が、河口及び墓地側の対岸に遡上する可能性があります。対岸までの海域は浅瀬であり、減水して海岸に到達するため影響は少ないと考えます。第二防波堤は、航路側から発生する波は防波堤に反射して対岸ではなく海側へ流れることや、設計外力となる北西の波に関しても防波堤を延伸したことにより対岸の墓地側は遮蔽されることから、影響は少ないと考えます。

質 恩納海岸の墓地へのアクセス道の整備ができないか伺う。

答 農林水産課長（平安名 盛常）

墓地を利用されている区民の皆様には、



▲墓地への通路

は、墓までの道のりの足場が悪いことや、シーミーの際も潮の干満に左右されるなど、大変不便を感じていると思います。アクセス道の整備については、漁業権の範囲内にあることや岩礁破砕の許可が必要となります。陸側は、文化財保護法による届け出及び沖縄県指定天然記念物現状変更許可等の行政手続きが必要となります。

人材育成の基本的計画と現在の状況

質 人材育成の基本的計画と現状を伺う。

答 社会教育課長（山田 俊幸）

第6次総合計画の基本理念に基づき地域づくりの実践につなげていく取り組みをして、人づくり、村づくりの実現に向けて取り組んでいるところです。

質 恩納村の現状を見たとき青年会、女性会、老人会、成人会など衰退

しているように思えるのですが、現状と見解を伺う。

答 社会教育課長（山田 俊幸）

価値観の多様化などにより、役員を担うことへの負担感などから、こうした団体への参加者が減ってきているとの状況を耳にしています。青年会、女性会については地域活性化を担う重要な団体だと考え、引き続き支援を行っていきたく考えています。

質 青年会、女性会などの県外、海外への研修の派遣の規定はあるのか伺う。

答 社会教育課長（山田 俊幸）

県外・海外派遣の研修会規定はありません。昨年の11月に中頭地区の青年・婦人会国内研修会に、村青年団協議会から2名、女性会から2名の計4名を派遣しています。過去に県外で研修が行われたこともあったと聞いており、今後も関係団体と協議し派遣等の検討をしていきたいと考えています。

質 男女共同参画社会の実現を目的として女性の地位向上につながる活動に取り組む女性のリーダーを育てるための海外研修の支援ができないか伺う。

答 社会教育課長（山田 俊幸）

団体への参加者が減ってきているとの状況もあることから今後、人材育成を図る上でも多種多様な研修会への参

加を促して、幅広い人材の確保に引き続き支援を考えているところです。

質 村長が感じる人材育成、恩納村が今後どのようにしていくべきか思いを伺う。

答 恩納村長（長浜 善巳）

恩納村の各字婦人会、村の協議団に参加加入団体も少なくなってきました。女性部のほうがもっと活発な活動ができるよう環境づくりと支援もできないか担当課と話をしているところです。女性部の会もありますので、皆さん方の声も聞きながら、今後さらなる展開をしていきたいと思っています。

質 人材育成の一環だと思いますが、海外ホームステイの応募人数と割合を伺う。

答 社会教育課長（山田 俊幸）

昨年の令和5年度は13名の応募に対して中学生は0名、高校生は4名派遣しています。

提 OISTを利用して、参加したいけれども行けない方のために英語合宿等、努力してもらいたいと思います。又、めんそーれフェスタに恩納区青年会がエイサーの演舞で出演、次年度以降も視野を広げる機会でもありますので、人材育成の観点から他の青年会・子ども会の派遣を検討していただきたいと思います。



大城 節子 議員

一時避難場所について

質 4月3日に発生した台湾東部沖を震源とする地震で、気象庁は津波警報を発令した。仲泊オリブ保育園では園児達を1か所に集め歩けない子は手押し車2台に乗せ、歩ける子は職員が両手に引いて裸足のままで移動した。職員20名で園児50名を避難させたそうです。避難場所は木陰もなく長時間の待機は熱中症になる恐れもありますが、今後この場所を一時避難場所としていくのか伺う。

答 総務課長（宮平 寛）

一時避難場所は災害から逃れるための一時的な避難場所と設定されています。今回の場所は十数年前に地域の方々と協議の上設定されていると認識しています。地域のほうとも協議しながら場所選定はできるものと考えています。

質 H・Y・O・R・ホテルとも緊急時の協定を結ばれたということですが、協定の内容を伺う。

答 総務課長（宮平 寛）

協定の内容は大規模な災害、地震、津波、洪水、台風災害等の予測可能な災害を除く場合の協定になっています。施設の一部、ロビー、駐車場を避難場所として提供する。避難者に対して水、食料、寝具、トイレ、入浴設備等を提供する。テレビ、ラジオ等で知り得た情報を提供する。村の要請に対して施設側が可能なとする協力が協定の内容となっています。

質 H・Y・O・R・ホテルと緊急時の協定が結ばれていることを地域の人も周知すべきだと思いますが、当局の見解を伺う。

答 総務課長（宮平 寛）

周知が足りないというところでお詫び申し上げます。津波警報のときにはどういった扱いになるのか、ホテル側と協議しながら周知、広報していきたいと思っています。

避難道路について

質 今回の津波避難による教訓で通称学校山グラーの避難道路の重要性を痛感しており、子どもたちのた

めにも一刻も早く避難道路ができることを願っており、その後の進捗状況を伺う。

答 総務課長（宮平 寛）

避難路につきましては土地の形状で結構勾配もきついです。進入口の選定、整備を進める上で法規制等もあり慎重に進める必要があると考えています。現在、村当局としては避難路の形状に合わせ民有地保安林等もありますので調査しながら前向きに整備のほうを進めていきます。

子どもの居場所について

質 村に不登校児の居場所はあるか伺う。

答 学校教育課長（仲村 泰弘）

村に公的な施設として設置はされておりましたが家庭、学校以外にも子どもたちの受入先が必要ではないかと考えています。

質 不登校になったら生活が乱れ、生活の乱れが心の乱れとなり引きこもりにならないか心配です。親もいずれば年を取ります。そのまま引きこもりになったら福祉のお世話になるかもしれません。学校に行けないのであれば子どもたちが行けるように居場所をつくり、そう

することで基本的な生活習慣も保てるのではないかと思います。基本的な生活習慣ができていれば後々自立にもつながると思う。自立できる環境をつくってあげるのも行政の仕事と思うが見解を伺う。

答 学校教育課長（仲村 泰弘）

基本的な生活習慣がその子の将来にかなり重要なポイントを占めているということは承知しています。基本的な生活習慣を子どもたちに身に付けさせていくには学校教育はもちろん、社会教育、福祉の分野でサポートが必要であれば連携を取りながら、子どもたちが将来幸せな生活を送れるよう支援していければと考えています。

道路標識について

質 県道6号線の仲泊売店前の三差路の道路標識案内板の文字が薄れ観光立村、恩納村のイメージダウンです。対応を伺う。

答 建設課長（當山 国博）

中部土木事務所へ現状を報告し要請したところ、優先度の高い修繕箇所が多数あり今年度の対応は難しいですが、地域からの要望でありしますので検討させていただきますという前向きな回答を得ています。